

5 小学部研究のまとめと課題

(1) 学部授業研究会を受けて

小学部の研究協議会では、学習指導案や「Pシート」「流れ図」を基に、小学部2年生の「4～5名程度で編成した六つのグループに分かれ、授業について協議を行った。

<講師講評>

助言者の渡邊教頭からは、主に以下の点について御指導を受けた。

【良かった点】

- ・(お客役の子供にとって)「ショーケースの中の食品サンプルを見て、この〇〇が欲しいから絵カードを手取る」ということが、子どもたちにとって分かりやすかった。
- ・(お店役の子供は)「絵カードが出てきたら、棚のかごから絵カードと同じ、食品サンプルを選ぶ」という活動が、子どもたちの認知力(同じものを選ぶ)の育成につながっている。

【課題点、改善点】

- ・小学部1年生なら1年生、2年生なら2年生なりの自己選択や自己決定が大事になってくるのではないかと思う。「これが欲しいです」と自分の意思を伝える活動を普段から取り入れ、少しずつ広げていってもらえればと思う。
- ・それぞれ事例の子どもたちに、観点別で目標を立てている。最終的に目標に対して「ここができていた」など振り返ることが大切である。目標に対して「〇〇ができていなかった」など望む姿になっていなければ、よりよい支援を確認するとともに、次の活動の目標、支援を考えてほしい。部内授業研究会後、以上のことを学部内で共有し、研究のまとめへとつなげた。

(2) 成果と課題

成果は下記の二点である。一点目は本校小学部の生活単元学習において、中心となる教科に生活科を設定するという事を全教員が意識し、全学年において生活科を中心に、各教科等を合わせた単元を構成し授業を展開したり、学習評価や授業改善を実施したりすることができたという点である。二点目は、「生活単元学習報告会」を年間3回実施し、授業改善の事例について教員間で情報共有ができたという点である。情報共有の時間を確保することで、生活単元学習で他学年が取り扱っている各教科等の内容を確認するだけでなく、どのように授業改善を行い、児童が主体的に活動するために手立て等を工夫したかについて、具体的に共通理解を図ることができた。

一方、課題点として「流れ図」の活用方法の改善が考えられる。今年度は、1学期に「流れ図」を作成し、学習評価を2学期に実施する単元に反映するという方法で実施した。しかし、時期を固定することで、次単元からつながりのある授業を考える際に難しさがあるという意見も出された。これまでの研究から、学習評価を次単元につなげるという考え方は浸透しつつある。今後は、「流れ図」の作成時期を固定せず、X単元の時期など学年で柔軟に時期を設定し、活用できるとよいと考える。この3年間、「単元計画表」に単元目標や合わせている各教科等、評価基準を整理する「Pシート」を作成し授業実践を積み重ねてきたことで、教員間の会話の中で「今の〇〇さんはPシートの知識・技能の◎の姿だったね」といった発言が聞かれるなど、3観点を意識した学習評価が浸透してきたと考える。これらを踏まえ、次年度は新書式を活用し学習評価を基にした授業改善に継続して取り組んでいきたい。